

Ⅲ 現状変更にとまなう調査

1) 第58次 右京三条一坊十六坪・西一坊大路

この調査は宅地造成にとまなうもので、奈良市尼辻町と横領町の二箇所である。発掘地は前者（T地区）は右京三条一坊十六坪、後者（O地区）は西一坊大路にあたる。発掘結果、T地区では奈良時代の遺構はなく、中世・近世の小穴・溝などを検出したのみである。O地区では発掘区は大路上にあたり、とくに顕著な遺構は検出されなかった。遺物は軒丸瓦一点と土師器片数点を発見した。

2) 第58次補足 西一坊大路と二条大路の交点

宅地造成にとまなう調査で、場所は奈良市横領町小割にあり、三条池の南、秋篠川の東である。調査の結果、大路上にあたるとみられ、顕著な遺構はなかったが、南北畦畔を発掘したところ、中世の秋篠川自然堤防の一部を検出した。遺物は全く出土しなかった。

3) 第60次 ウワナベ古墳外堤部中央以南

国道24号奈良バイパス建設に伴う事前調査である。古墳の周濠の現在の岸から約25m離れて、ほぼこれに平行する円筒埴輪列、さらにこの2m東に奈良時代の幅2mの南北溝1条を検出した。円筒埴輪列と空濠は南北両端とも後世の削平をうけて失われており、南北96mにわたる部分しか検出できなかった。しかし、この調査でウワナベ古墳の周庭帯の規模や構造が明らかになったのは大きな成果であった。

4) 第61次 一条高校東側

第60次と同じく奈良バイパス建設予定地の調査で、57次の南に接し、県道一条通りの南にわたる。この地域は東三坊大路の存在していた場所だが、後世の河川の氾濫によって大きく破壊されていった。東側溝も現在河

川敷になっていて調査不能であった。

5) 第62次 平城宮北辺中央

家屋新築にともなう調査で、ほぼ平城宮の北辺中央に当り、北側20mに北面大垣を推定している。調査によって土垣15・溝5条・小穴多数を検出した。発掘区中央に径約5m、深さ0.8mの不整形土垣があり、この周囲に径2m前後、深さ0.5mの土垣がある。いずれの土垣からも近世の瓦・土器・下駄・陶器・磁器が出土した。小穴群からの出土遺物は少ないが、土垣群と同様の遺物を出土している。

また中央の土垣が埋められた後、この上に瓦・礫を部分的に用いた幅30cm、深さ10cmの南北溝がある。

以上から発掘区内には奈良時代の遺構は残っておらず、近世に一部地山を削り、平坦地にして性格不明の土垣群が多数つくられたものであると考えられる。

6) 第64次 平城宮東張出部東端中央附近

この調査も宅地造成にともなうもので、宮城東面大垣推定位置に接して東側の宮外(W地区)と西側の宮内東院部分(A地区)との2箇所である。

W地区では東面大垣の痕跡は検出できなかったが、大垣の外濠と考えられる幅1.2mの南北溝を検出した。この他に土垣1基・小穴数個・中世の井戸2基などを発見した。

A地区は宮城門の存在が考えられる地域だが、近世の溝状攪乱とトレンチが重なったため調査の結果は門跡と見られる明確な遺構は発見できなかった。ただ調査地区西半部に凝灰岩の細片が散乱しており、中央西よりのところで西に下る段落を検出したので、附近に凝灰岩を用いた建物基壇の存在が考えられる。

7) 第65次 第2次内裏北方

同じく宅地造成にともなう調査である。発掘地はかつて家屋がたてられていたところで、上部は後世の攪乱をうけている。遺構は調査地区東部で南北に3個並ぶ柱穴列と数個のピットのみで、他に顕著な遺構は検出できなかった。また遺物は後世のものばかりであった。

8) 第66次 左京一条三坊十五坪相当

これまた宅地造成にともなう調査があるが、さきにバイパス事前調査として行われた第56次調査で発見した庭園を有する邸宅跡の西半にあたるところで2地区(F・H)に分れる。F地区の西トレンチからは何も出ず、東トレンチから柱穴とおぼしきもの4個・東西溝2条を検出した。遺物は平瓦・土器片が数点出土した。

H地区では西トレンチの西端で溝状のもの、中トレンチでは中央やや東寄りに柱穴2個、東トレンチではピット群と56次調査に続く平塚2号墳の周濠部を東端でそれぞれ検出した。その他に新しい時期の井戸や溝等で、特に遺構としてまとまるものは検出されなかった。遺物は土器片が少し出ただけである。

9) 第67次 宮城西北部

宅地造成にともなう緊急調査で、場所は佐紀池のすぐ西側である。調査の結果、遺構面は西隣の第49次調査と同じく、黒色の砂質の整地層で、検出した遺構はトレンチ西寄りに幅1.8mの南北溝1条、トレンチ東寄りに落ちこみを検出したのみである。遺物は奈良時代の瓦片・土器片を数点検出した。